

<研究目的>

昭和 50 年の文化財保護法の改正によって伝統的建造物群保存地区の制度が発足し、城下町、宿場町、門前町など全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存が図られるようになった。国は市町村からの申し出を受けて、特に価値が高いと判断したものを重要伝統的建造物群保存地区に選定している。

『伝統的建造物群保存地区』とは、伝統的建造物群及びこれと一体をなしてその価値を形成している環境を保存するため、(中略)市町村が定める地区(文化財保護法第 142 条より)をいい、保存地区には「伝統的建造物群と一体をなす環境」も含めて保存し、「管理、修理、修景又は復旧」することが求められている。ここでの環境とは、「これと景観上密接な関係にある樹木、庭園、池、水路、石垣等を環境物件として特定します」(「歴史を活かしたまちづくり」文化庁 2014 年より)とあるように、重要伝統的建造物群保存地区にとっては重要な要素である。

本研究は、南九州地方の 7 地区を中心に、建造物の影に隠れて着目されることの少ない環境物件が、どのような状況にあるのかを調査し、明らかにすることを目的とした。

<研究方法>

調査は以下の 7 地区について行った。

- ①宮崎県日南市飫肥 (武家町)
- ②宮崎県日向市美々津 (港町)
- ③宮崎県椎葉村十根川 (山村集落)
- ④鹿児島出水市出水麓 (武家町)
- ⑤鹿児島薩摩川内市入来麓 (武家町)
- ⑥鹿児島南さつま市加世田麓 (武家町)
- ⑦鹿児島南九州市知覧麓 (武家町)

研究の最初として各地区の文化財課などに問い合わせ保存計画書を収集し、次に現地調査を行った。

<分類について>

各地区の保存計画書を分析してみると、指定する物を大きく伝統的建造物と環境物件に分け、さらに伝統的建造物を建築物と工作物に分けている。振り分けは各市町村に委ねられているため、石垣などは工作物と環境物件の振り分けが地区によって多少のばらつきが認められた。

<調査結果> (各地区の特徴)

- ①日南市飫肥 (武家町): 宮崎県の南部、日南市の中央部に位置し、飫肥城を中心とした小規模な旧城下町で、保存地区は城下町のうち町家の部分を除いた侍屋敷と城跡である。伝建地区の指定は九州では最も早い昭和 52 年である。道路に沿って石垣を整然と積み上げ、その上に生垣などを設けて屋敷地とし、これらが環境物件として 129 か所が指定されている。石垣は飫肥石の切石積みや川原石の玉石積みが中心である。指定はされていないが、見越しの松など景観上重要な樹木も多い。
- ②日向市美々津 (港町): 美々津は、日向市の南端で日向灘に臨み、江戸時代には瀬戸内や近畿地方との

交易の玄関口として発展した。保存地区は指定物件の旧海鮮問屋の建物が中心となり街並みを形成し、40 件の環境物件(土塀、石畳、共同井戸、石塀、石祠、石灯籠、石段、庭園、樹林)が景観上のアクセントとなり点在している。

- ③椎葉村十根川 (山村集落): 椎葉村は九州の真ん中、日向市と熊本市の中間の険しい山岳地区に位置する。「椎葉型」とも呼ばれるこの地域特有の一系列平面型の民家が 32 棟指定されており、それらを支える石垣や段々畑の石垣が 112 件指定されている。また地区内の社叢にはひととき大きな杉の木が指定されていたり、それらが重なり合い、険しい山々の谷間の地に緑豊かな山林に美しい景観を構成している。
- ④出水市出水麓 (武家町): 鹿児島県には、薩摩藩内各地の外城の武士の住居区を「麓」と呼び、113 の麓が存在していた。鹿児島県内の伝建地区はいずれもこの「麓」の付く地区である。出水市は、鹿児島県の北西部に位置し、熊本県水俣市と接している。出水麓は藩内最大の麓であったため、建築物の指定は 94 件、その他に石垣や石段、腕木門などが 500 件以上指定させている。まっすぐに通る街路(馬場)に沿って並ぶ広い屋敷地は、街路よりも 1m 以上高いために石垣が街路沿いに整然と並び、その上にイヌマキの生垣が続き、美しい景観を構成している。
- ⑤薩摩川内市入来麓 (武家町): 薩摩川内市は、薩摩半島の北西部にあり、入来麓はその内陸部に位置する。屋敷地周囲には石垣を築き、その上に生垣を設ける。石垣は野石乱積の玉石垣が多く、基礎部及び上端に大きな玉石を配す。生垣は茶、イヌマキ、イヌノキが多い。限定された素材で統一感がある。沖縄でよく見られる石敢當がこの地区内でも多く置かれている。また樹木(24 件)や庭園(12 件)も地区の大きさにすると多くのものが指定されている。
- ⑥南さつま市加世田麓 (武家町): 南さつま市は、薩摩半島の南西端に位置し、加世田麓は、市域の北部に位置する。水路がこの地区の特徴で、水路に沿って石垣が並び、その上にはイヌマキなどの手入れされた生垣が並び、水路を渡る石橋、その先の腕木門、洗い場の石段、奥の庭園などの指定物件がこの地区の豊かな景観を作り出している。
- ⑦南九州市知覧麓 (武家町): 知覧麓は薩摩半島の中央南部に位置する。本馬場と呼ばれる保存地区中央の道路が約 900m 延び、この道沿いに大きな屋敷地が並ぶ。この地区の屋敷地も道より高く造成されているため、1~1.5m ほどの石垣が続き、その上にイヌマキや茶の生垣が並ぶ。その石垣は切石積と玉石積があり、本家と分家の違いを表している。立派な庭園が多く残されており、それらを有料で一般公開し、保存維持のために使っている。